

科目分類	専門分野	学 年	2 年	担当教員の氏名・職名
授 業 科 目 名	地域・在宅看護援助論 Ⅱ (地域で暮らしを支えるナースングプロセス)	学 期	前 期	河上 葉子 (看護教員) 西田 和美 (看護教員)
		単 位 数	1	
		時 間 数	16	
目 的 (ねらい)	様々な健康レベルにある人々の健康を支え、地域で暮らし続けることを支援するための看護について学ぶ。			
目 標	1. 在宅で療養する人々の生活をイメージし、在宅看護過程の展開について理解する。 2. 在宅療養者のリスクマネジメントについて理解する。 3. 療養者が在宅で生活する意味について考察する。			
授 業 計 画	回数	単元項目	内 容	授業形態
	1	在宅看護過程の展開①	在宅看護過程の基本的な考え方	講義
	2	在宅看護過程の展開②	事例をもとに ICF を用いた情報の統合	講義
	3	在宅看護過程の展開③	優先順位・計画立案におけるポイントを考える	
	4	難病を持つ療養者の看護		講義・ワーク
	5	事例を通して考える	難病をもつ療養者の特徴と在宅でのケア	
	6	エンド・オブ・ライフケア	事例をもとに看護を考える	GW・講義
	7	期の看護	エンド・オブ・ライケアについて	講義
	8	事例を通して考える		
	継続看護	事例をもとに看護を考える	GW・講義	
		継続看護と退院支援・退院調整	講義	
		* 1. 2. 3 西田 * 4. 5. 6. 7. 8 河上		
教 科 書	ナースンググラフィカ「地域療養を支えるケア」メディカ出版 ナースンググラフィカ「在宅療養を支える技術」メディカ出版			
参 考 文 献	新聞、専門雑誌等。必要に応じて資料配布、紹介をする。			
評 価 方 法	定期試験、課題の提出状況・内容、授業中の態度を総合的に評価する。 定期試験は、河上教員（60点）、西田教員（40点） 合計 100 点満点での結果を最終評価とする。			
関 連 科 目	文化人類学 心理学 コミュニケーション論 生命倫理学 現代社会論 リハビリテーション論 医療倫理 社会保障・社会福祉 公衆衛生 看護関係法規 看護学			
自 己 学 習 に 関 する 指 針	メディアを積極的に活用し、「地域・在宅看護」「地域・在宅医療」等に関する情報を各自で得ること。 地域・在宅看護概論Ⅰ・Ⅱの学びを復習しながら授業を受けること。			
そ の 他 の 通 知 事 項	質問には適宜応じる。			